

## 生い立ち

私が育つとき、たくさんのこと経験しました。楽しいことも、つらいことも、でも全部意味がありました。わたしはふつうの家に生まれました。生活は大変なこともあります。長女として、わたしは早くから責任を学びました。小学校の時、朝早く起きて、田んぼで一生懸命働く両親のためにご飯を作りました。毎週土曜日、川で幼ともだちと洗濯をしました。笑ったり話したりして、ただの仕事も楽しい時間になりました。

夜、姉とわたしは電気がなかったので、近所の家にテレビを見に行きました。月の光だけで道を歩きました。その小さな夜の思い出は、今でも大切です。生活は簡単ではなかったけれど、愛や笑い、小さな喜びにあふれていて、私たちを強くしました。

学校の後、よくおばあさんの家に行きました。家に食べ物がないことがよくあったからです。おばあさんは「来ないで」と言うけれど、いつも少し食べ物をくれました。ご飯に塩水やしょうゆだけの日もありました。でも、わたしたちは貧しくないと感じました。みんな一緒にいたから、それで十分でした。

ビコルで育つことは、たくさんの嵐に会うことも意味しました。生活の中でも、天気の中でも。家はアナハウとサワリでできていて、台風で屋根が飛ぶこともありました。でも、家はいつも立ちました。何年か後、家が完全に壊れたとき、わたしは石の丈夫な家を作ろうと決めました。どんな嵐でも、家を壊せない家です。

大きくなると、週末や学校の休みの日に両親を手伝いました。仕事は大変でしたが、忍耐や愛、犠牲の意味を学びました。夜はろうそくの明りで勉強しました。火が消える前に夢を追いました。暗くても、夢は明るかったです。

近所の人が外国、特に日本に行くのを覚えています。毎年帰ってきて、プレゼントや良い生活の話を持っていました。「いつか私も行こう」と思いました。その夢は贅沢のためではなく、家族のより良い未来のためでした。

今、わたしは二人の子供がいます。夢は大きくなつたけれど、変わっていません。子供の教育や未来のために、一生懸命働いています。人生は完璧ではなかつたけれど、苦労も、笑いも、夢も、すべてが美しい旅になりました。私は小さいはじまりをほこりに思います。小さいはじまりから、ゆめをもつこと、がんばること、そしてあきらめないことを学びました。